

語れる場や創作の場の提供で ひきこもりの若者を支援

独立行政法人福祉医療機構（WAM）が行う社会福祉振興助成事業（WAM助成）は、国庫補助金や寄付金を財源とし、高齢者・障害者などが地域のつながりのなかで自立した生活を送れるよう、NPOやボランティア団体などが行う民間の創意工夫ある活動などに対し、助成を行っています。

今号では、WAM助成を活用した特定非営利活動法人十月の森の取り組みを紹介します。

生きづらさを抱える こども・若者の支援に取り組む

佐賀県武雄市にある特定非営利活動法人十月の森は、不登校やひきこもり、発達障害など、さまざまな生きづらさを抱えるこども・若者に対し、学びと仕事を通して社会と関わる機会の提供に取り組んでいる。

法人の設立経緯について、理事長の伊東秀基氏は次のように説明する。

「私がこども・若者の支援活動を始めたのは60歳を過ぎてからで、それまでは広告の制作・編集の仕事をしていました。クライアントに学校関係が多かったこともあり、こども

たちと関わったり、現場の話を聞く機会がありました。その頃は、不登校のこどもが急激に増え始めた時期で、生きづらさを抱えるこどもたちが安心して過ごせる場所をつくりたいと思い、令和4年にNPO法人を設立しました」。

現在の主な活動としては、鹿児島県に本校のある高校と提携し、通信制高校の「神村学園高等部」・武雄校舎・上峰校舎を運営している。不登校・ひきこもり傾向のある生徒の高校卒業資格取得をサポートしており、学習や進路相談にとどまらず、生活支援も行っている。

本来、通信制高校は自宅での自学自習が基本となるが、生活リズムが崩れたり、交友関係が広がらないことから、在宅コースとともに通学型（週2日、週5日コース）を取り入れながら、柔軟にサポートしていることが特徴となっている。

そのほかにも、小学4年生から中学3年生までの不登校のこどもを対象にした学習会「みんなの学校」、クリエイター養成型の就労継続支援B型事業所「スラッシュ」を運営している。

一言

WAMから

生きづらさを抱える若者たちのニーズにあわせて柔軟に事業を実施し、利用者寄り添った支援が行われた点を高く評価しています。利用者アンケートからもポジティブな気持ちの変化があったという声が寄せられました。また、講座が終了した後も他講座を受講するなど、利用者が学び続けたいと思える重要な居場所になっています。広報や情報収集では行政との連携体制が構築するなど積極的な発信も行っており、支援の狭間にいる若者へのアプローチが全国に広がることを期待されています。

自己肯定感や他者信頼感を醸成

同法人は、令和6年度のWAM助成を活用し、「自分を大事にすることから始まる社会参加と自立事業」を実施した。

同事業は、ひきこもりや働く意欲を失いかけた若者たちの自己肯定感や意欲を回復させることを目的に、①焚き火を囲んで話そうよ「FOX FIRE」、②ひきこもりサポーター養成講座、③クリエイター養成スクール、④手仕事・家仕事の達人YouTubeセミナーを行った。

「ひきこもり当事者の増加や長期化が進む





▲▼年間8回開催したキャンプには、延べ40人の生きづらさを抱える若者が参加した。写真は焚き火を囲んで語りあう参加者の様子



当事者同士の対話の場を提供

なか、そのような人たちに総じていえることは、『自分に自信がなく、自己肯定感が低い』ことがあげられます。彼らが『もう一回やってみよう』と思えるようになるためには、まずは自己肯定感や他者への信頼感を取り戻し、意欲的になることが重要で、学びやスキルの習得は次の段階になります。そのため、WAM助成では、当事者の自己肯定感や他者信頼感を醸成する機会を提供するとともに、ひきこもり支援を担う人材の育成に取り組みました」（伊東理事長）。

「焚き火を囲んで話そうよ『FOX FIRE』は、生きづらさを抱える18歳以上の若者を対象にキャンプを実施し、当事者同士が焚き火を囲んで語りあうことで、自分を認め、他者を

参加者は、20〜30代の男性を中心に、就労経験はあるものの、何らかの事情でひきこもり状態になってい

信頼するきっかけをつくることを目指した。なお、「FOX FIRE」は、暗がりや発光するコケのことで、「みんなの暗闇を照らす」という想いが込められている。年間8回開催したキャンプ活動は、延べ40人が参加した。事業の周知方法としては、SNSで発信したほか、地域若者サポートステーションやひきこもり支援団体、民生委員などに事業説明を行い、案内チラシの配布や対象者を紹介してもらった。

る人、法人内外の就労継続支援B型事業所に通所している人などが参加したという。キャンプ活動では、参加者とスタッフが一緒に現地での設営準備をはじめ、ピザ窯を使ったピザづくりやパーベキュー、火起こし体験、当事者によるギターの弾き語りライブ、ボランティアによるヴァイオリン演奏などを行った。日が暮れたあとは、焚き火を囲みながら、参加者同士でたわいのない話をしたり、互いに悩みを打ち明けるなどの対話を行った。

令和6年度事業

特定非営利活動法人十月の森

自分を大事にすることから始まる社会参加と自立事業



WAM助成
e-ライブラリー

事業概要

助成額

477万7千円

【事業概要】

ひきこもりや働く意欲を失いかけた若者の自立支援を目的に、生きづらさを抱える者同士が語りあう場の提供、ひきこもりサポーターの養成、自己肯定感の向上につなげるイベントを開催する事業



【実施内容】

◆焚き火を囲んで話そうよ『FOX FIRE』

キャンプ活動に参加した当事者に焚き火を囲んで対話する場を提供し、自己肯定感を高めながら他者を信頼するきっかけをつくる



◆ひきこもりサポーター養成講座

ひきこもりサポーター養成講座を開催し、支援者を増やすとともに、ひきこもり問題の現状を広く周知する

◆クリエイター養成スクール

生きづらさを抱える若者の自己肯定感を高めるため、創作活動の楽しさや達成感を実感してもらう機会を提供

◆手仕事・家仕事の達人YouTubeセミナー
自分の特性を活かしながら仕事をしている人の紹介動画を制作し、YouTubeで配信

【成果】

◆キャンプ活動は年間8回開催し、20〜30代の男性を中心に延べ40人が参加した。継続的に参加することで自己肯定感が高まり、働く意欲をもつなど参加者が変化の様子がみられた

◆全6回開催した「ひきこもりサポーター養成講座」には、ひきこもりの子をもつ家族や経験者など延べ85人が受講。すべて受講した14人に対し、修了証書を授与した

◆生きづらさを抱えた若者を対象にした創作活動の取り組みとしては、イラストや漫画などの作品を募集し、集まった100点以上の作品で同人誌を制作。令和7年2月に作品のパネル展や、同人誌の無料配布などを行うイベント「COMUPALin 武雄」を開催し、128人の来場があった



◆「手仕事・家仕事の達人YouTubeセミナー」では、自分の特性を活かした仕事をしている人の紹介動画を4本配信した



参加者同士の対話について、生活支援員の松尾祥平氏は次のように語る。

「参加者は、『話を聞いてほしい』、『自分を認めてほしい』という思いが強く、自ら経験談を話す人が多くなっています。人とのつながりをもちたいと考え、周りの参加者がどのようなコミュニティをもっているのか質問する人も多いです。キャンプ活動のよいところは、一緒に食事をしたり、共同作業を通して会話以外にもコミュニケーションが生まれるので、焚き火を囲んだ対話に自然と入っているところがあります。同じような境遇にある人たちは共感することも多く、関係を構築しやすくなっています。居心地のよさを感じてもらえることで、ほとんどの人が継続的に参加しており、その人たちが中心になって活動をしてくれるようになっていきます」。

全6回開催した「ひきこもりサポーター養成講座」をすべて受講した14人に、修了証書を授与した



令和7年2月に開催した「COMUPALin 武雄」には128人が来場した

参加者へのアンケートでは、「人前で話せたことが自信になった」、「受け入れてもらったことで自己肯定感が高まった」、「周りかどのように思っているのかを聞くことができてよかった」という声が寄せられたという。

ひきこもり支援の担い手を育成

ひきこもり支援に関わる人材の育成を目的にした「ひきこもりサポーター養成講座」は全6回開催し、延べ85人が受講した。受講者は、ひきこもりのこどもを抱える保護者や教員、民生委員のほか、自らの経験を活かしたいと考える元当事者や支援に関心のある地域住民などが参加した。

ひきこもりサポーター養成講座について、理事の落水恒介氏は次のように説明する。

「プログラムでは、ひきこもり問題の現状やサポーターとしての姿勢・役割、傾聴スキルなどについて学びました。講座はリアル開催とともに、オンラインでも受講することが可能で、受講者の実人数23人のうち、すべて受講した14人に対して修了証書を授与しました。今後学び続けたいという受講者は半数以上にのぼり、悩みを抱える保護者同士や同じ志をもつ人たちの仲間づくりの場にもなりました」。

創作活動を通じて自己肯定感を高める

「クリエイター養成スクール」は、生きづらさを抱える若者たちを対象に、創作活動の楽しさや達成感を実感してもらうことで、自己肯定感を高めながら、社会との良好な関係性を育むことを目指した。

具体的な取り組みとしては、令和7年2月に、同人誌のイベント「COMUPALin 武雄」の開催を企画し、それに向けた作品づくりという趣旨で、地域若者サポーターセッションを通じて、創作活動をしているひきこもり傾向の若者、高校生からマンガやイラストなどの作品を募集した。その結果、20人以上から100点を超える作品が集まり、同人誌を制作した。

「イベントでは、作品のパネル展や制作した同人誌を無料配布したほか、多くの人たちに参加してもらえるよう、佐賀県を舞台にした人気アニメのボードゲームイベントを行い、128人の来場者を集めました。会場内には地域若者サポーターセッションの協力で就労に関する相談ブースを設け、相談対応を行いました」(落水氏)。

そのほかにも、助成事業では「手仕事・家仕事の達人YouTuberセミナー」として、自分の特性を活かしながら仕事をしている人たちの紹介動画を作成した。

当初の計画では、生きづらさを抱える若者の事情を理解し、受け入れを考えてくれる企

助成事業の成果として、生きづらさを抱える若者が人とつながりながら自己肯定感を高める場の提供や、ひきこもりサポーターを養成することができた。

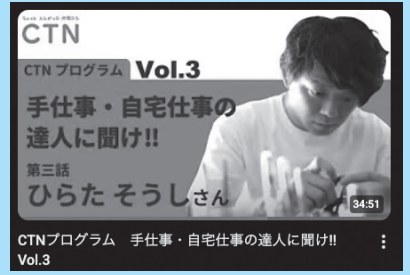
「キャンプ活動の参加をきっかけに、中学

参加をきっかけに意欲を取り戻す

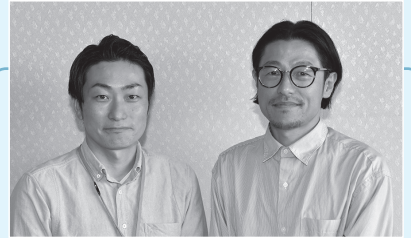
働きたい気持ちはあるものの、人とのコミュニケーションがとれずに悩んでいるケースが少なくありません。自分の特性を活かしながら自宅で働いたり、一人ひとりにあったさまざまな働き方があることを知ってもらい、自分らしく働くことのヒントにしてほしいと考えています」（落水氏）。

業が一堂に会した就職・就業合同面談会の開催を予定していたが、ひきこもり当事者の申し込みが少なかつたことから、「手仕事・家仕事の達人」と題して、自分の特性を活かしながら仕事をしている人を取材し、仕事内容やインタビューの動画編集を行い、YouTube配信する内容に切り替えた。

「ひきこもり状態の人と話をするなかで、働きたい気持ちはあるものの、人とのコミュニケーションがとれずに悩んでいるケースが少なくありません。自分の特性を活かしながら自宅で働いたり、一人ひとりにあったさまざまな働き方があることを知ってもらい、自分らしく働くことのヒントにしてほしいと考えています」（落水氏）。



自分の特性を活かしながら仕事をしている人の紹介動画を配信することで、自分らしく働くヒントにしてもらうこと目指した



左から特定非営利活動法人十月の森 生活支援員の松尾祥平氏、理事の落水恒介氏

自分らしく過ごせる 常設の居場所をつくる



特定非営利活動法人十月の森
理事長 伊東 秀基氏

当法人は、「生きがいよりも生きやすさ。働きがいよりも働きやすさ」というスタンスのもと、極端に言えば「大きな夢をもたなくても生きていける」ことを伝え、長期的に支援に関わり続けられる事業を展開してきました。

不登校やひきこもりの要因として、家庭の経済的な影響が密接に関係しており、貧困などで親の余裕がなくなり、虐待やネグレクトが起きているケースが少なくありません。今後は、そのような子どもたちが安心して自分らしくいられる常設の居場所をつくり、シェルターのような機能を備えることができると考えています。

◆団体概要

〒849-2303
佐賀県武雄市山内町大字三間坂甲 13800
TEL: 0954-45-3242
FAX: 0954-45-3265
URL: <https://10forest.com/>
設立: 平成22年7月
理事長: 伊東 秀基

有でできることにより、刺激を受ける人も多くなっています」（伊東理事長）。

一方、現在の課題としては、あらゆる段階の当事者に参加してもらえらるコンテンツをつくる必要性をあげている。

「ひきこもりといっても、人と関わることに非常に高いハードルがある人、きっかけを求めている人など、さまざまな段階の人たちが

校からひきこもっていった20歳の男性が高校進学したケースがありました。そのほかにも、仕事をするために調理師免許の資格を取得したり、当法人が実施する別の活動に参加するなど、参加者が意欲的に変化していく様子がみられました。リピーターが多く、参加者同士が変化していく様子を共有しています」（伊東理事長）。

生きづらさを抱える若者に寄り添いながら支援を行う同法人の活動が全国に広がるのが期待される。



社会福祉振興助成事業に関するお問い合わせ

●NPO リソースセンター

NPO 支援課（助成事業の相談・募集、NPO の融資相談等）
TEL: 03-3438-4756 FAX: 03-3438-0218 (共通)

NPO 振興課（助成事業の広報、事業評価等）
TEL: 03-3438-9942 FAX: 03-3438-0218 (共通)

NPO等の民間福祉活動への
応援よろしくお祈いします！

当機構では
寄付金を募集
しています



お問合せ先: 03-3438-0211 (総務部総務課)

